

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第11号 2007年1月

事務所：〒840-0054 佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL/FAX 0952-28-2077

e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

URL <http://www2.odn.jp/unicef-saga/>

\$\$\$ 支部通信はホームページでもご覧いただけます

明けましておめでとうございます。

旧年中は、ユニセフの活動にひとかたならぬご支援を賜りましてまことにありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



たくさんのハンド・イン・ハンドご協力 ありがとうございました



©unicef

- ◎ 第28回ユニセフ ハンド・イン・ハンドは、「守りたい、子どもの命…子どもの未来」をテーマに11月から12月までの2ヶ月間、佐賀県内はもとより県外からも多くのご協力をいただきました。
- ◎ 皆様方から佐賀県支部を通じてご協力いただいたハンド募金総額はなんと**1,509,154円**にも達しました。
これは、今までのハンド・イン・ハンド（佐賀友の会時代も入れて）のなかで最高の募金額です。たくさんの皆様方の様々な形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。

- ◎ 今回のハンド・イン・ハンドの特色としては、個人の方々からのご協力もたくさん寄せられましたが、更には、団体・企業の方からの「社会に還元したい。についてはユニセフを通じて世界の様々な困難な状況下にある子どもたちの支援に活かして欲しい。」ということでのご協力が多かったことと、学校の総合的な学習の発展として募金活動に取り組みそれをハンド・イン・ハンドへ、あるいは文化祭などでバザーに取り組みその益金をユニセフハンド募金に…等など、色々な場での様々な取り組みのおかげでこのような大きなご協力をいただくことができました。ありがとうございました。
- ◎ 2006年12月29日(金)に1,509,154円を日本ユニセフ協会へ送りましたことをご報告させていただきます。

2006 ハンド・イン・ハンド in 佐賀県

12月17日(日)

- ◆ 強い北風、初雪を観測する寒い一日でしたが、佐賀玉屋前・上峰サティ・イオンスーパーセンター佐賀店・バニーズ三日月店の4箇所で「守りたい、子どもの命…子どもの未来」というテーマで募金活動をしました。
- ◆ 各会場近くの方、福岡市や嬉野市、柳川市などから駆けつけてくださったボランティアさんは総勢76名にもなりました。

上峰サティ会場（上峰町）



佐賀玉屋会場（佐賀市）



イオンスーパーセンター佐賀店会場（東与賀町）



バニーズ三日月店会場（小城市）



12月23日(土)

- ◆ 鹿島市ピオ、モリナガでのハンドインハンドには、ボーイスカウト鹿島第一団の皆さんや鹿島ライオンズクラブの皆さんがボランティアとして協力してくださいました。
- ◆ 会場近くのお花屋さんも「ユニセフ募金にどうぞ」と、硬貨がたくさん入った重い貯金箱を持ってきてくださいました。
- ◆ ボランティアの皆さんは「ユニセフ募金にご協力をお願いします。」「ハーブの種がついています。チラシをどうぞ読んでください。」と大きな声で夕方の買い物客に呼びかけました。チラシを見て「あっ、オードリー・ヘップバーンだ!」と言ってかわいいお財布から10円玉を出して募金をしてくれた小学生の女の子もいました。(小学生がオードリー・ヘップバーンを知っていたのに驚きました。)

モリナガ会場(鹿島市)



ピオ会場(鹿島市)



12月24日(土)

- ◆ クリスマス・イブのお買い物客で賑わうジャスコ佐賀大和店で今年最後のハンドインハンドを実施しました。
- ◆ 両手に大きな荷物を持ち足をとめて募金箱にお金を入れながら「ご苦労様です。」と言ってくださるお客様もおられて、ボランティアの皆さんは元気をいただきました。

ジャスコ佐賀大和会場(佐賀市)



- ◆◆◆ ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアのみなさま、募金に温かい思いをお寄せいただいた多くのみなさま、早く会場をご提供くださった企業のみなさま、本当にありがとうございました

世界の子どもたちは、今



©UNICEF Angola/2006/Stark-Merklein
ユニセフの支援を受け自分達で造った学校の前に建つアンデュロ村の人々。村人の多くが地雷で心身に傷を負っている。

< アンゴラ >

未来に向かって...地雷被害者が学校を建設



2006年11月20日

アンゴラ共和国
(外務省ホームページより)

30年近く内戦が続いたアフリカ西部の国アンゴラ。中部ビエ州のアンデュロ村の小学校はレンガ造りの質素な建物です。アンゴラのどこにでもあるような普通の建物ですが、村人にとっては宝物。自分達の手で造った建物というだけでは無く、そうした村人の多くが、地雷によって障害を負った人々だったからです。そんな彼らにとって、学校の建設はとても大変なものでした。対人地雷で左足を失ったディビッド・カチャマさんは、「一番大変だったのは、壁を作るためにレンガを積み上げること。高いところに積み上げる時、体のバランスをとるのが本当に難しかったよ。」と語っています。カチャマさんや彼のような境遇に置かれている村人の生活は決して楽なものではありません。しかし、彼らにとって、「戦争で傷を負った事」を理由に自分たちの子どもの教育を犠牲にすることは、ありえない選択肢だったのです。この小学校が出来る前、一番近くの学校は村から歩いて1時間以上の場所にしかありませんでした。そこで、自分たちの村に学校を建てることを決意したのです。男性が壁を造っている間、女性や子どもは川からレンガを作るための水を汲んできました。ユニセフは、学校建設に必要な資材や教材を提供しました。

過去を乗り越え、未来を作る

地雷で両足を失ったデルフィーノ・ノートンさんは次のように語っています。

「『若者に、より良い明日への希望を与えたい』という願いを込めて、私たちはこの学校を建てました。」

この村の出来事は、内戦後のアンゴラに住む人々の「想い」を象徴しています。この国では、内戦によって傷を負った人々が力を合わせ、子どもたちが、より良い未来に生きるための礎を作ろうとしているのです。内戦によって心身に刻まれた深い傷を乗り越えようとしているのです。



©UNICEF Angola/2006/Stark-Merklein

ノートンさんと2人の息子。ノートンさんは、「この小学校は、子どもたちに将来への希望を与えたいという、私たち村人一人一人の愛の結晶」と語る。

アンゴラには、未だに数百万の地雷が、その埋設場所も判らないまま残されていると推定されています。地雷によってアンゴラ国民 220 万人（うち 60%が子ども）の日常生活が脅かされているのです。これまでに、約 8 万人が地雷によって身体的・精神的な傷を負ったと考えられています。また、子どもたちは大人以上の危険に晒されています。なぜなら、子どもはカラフルで変わった形をしている地雷に興味を持ち、いじってみようとするからです。アンデュロ村でも、これまでに 5 人の子どもが犠牲になりました。これ以上の被害者を出さないため、ユニセフは、地雷の危険性と地雷を見つけたときの対処法を教えています。

「アフリカに学校を建てよう！(Schools for Africa)」キャンペーン

ユニセフ・アンゴラ事務所職員のジョナサン・コールドウェルは次のように語ります。「学校に来ている子どもたちに地雷の危険性を教えることは難しくありません。学校は、地雷をはじめ、子どもたちの生存を脅かす様々な問題に関する情報を伝えるのに、絶好の場になり得るのです。」

バリオ アゴスティーノ ネット村の小学校の建設には、ネルソン・マンデラ基金、民主主義と国際法促進を目的としたハンブルグ委員会、そしてユニセフが共同で展開する「アフリカに学校を建てよう！(Schools for Africa)」キャンペーンからの資金的支援が提供されました。

「アフリカに学校を建てよう！」キャンペーンは、アンゴラに、1,500 の学校を再建もしくは新たに建設することを目指しています。2004 年のキャンペーン開始以来、これまでに、220 校あまりが建てられました。また、2 万人以上が新たに小学校教師として採用され、トレーニングを受けています。

ユニセフ・アンゴラ事務所のコールドウェル職員は、次のようなメッセージを寄せています。「どんな困難も、こうした村人達の熱意の前では取るに足らない事になってしまうようです。村人達は、子どもに教育を受けさせることが、よりよい未来を作るために最善の道であると知っているのです。」

【資料提供：(財)日本ユニセフ協会】


Let ' s unicef



ボランティア 宇都 久美子さん（佐賀市大和町）

クリスマス・イブの日のユニセフ ハンドインハンド募金活動に今年も参加しました。師走の慌ただしい中で、こころよく足を止めて協力してくれる人もいましたが、大きな買物袋を提げて帰宅を急ぐ人に募金をお願いするのは大変難しいことでした。その中で一番心に残ったのは、5 歳位の小さな男の子が走って近寄り、10 円玉を何枚か募金箱に入れてくれたことです。私は思わずその子の頭を撫でてしまい、「クリスマス・イブの日にあなたは世界中の何人もの子どもたちの命を救ったのよ。」と話しかけたら、誇らしい笑顔をした子どもの姿がそこにありました。そして、その笑顔は私の少し疲れた心までとかしてくれました。私とその子の心が繋がった瞬間だったと思います。それは、私への素敵なクリスマスプレゼントでした。

かつどう ほうこく

- ◎ 10月7日(土)、8日(日) ユニセフ パネル展 佐賀大学医学部「むつごろう祭」
佐賀大学医学部の学園祭「むつごろう祭」が佐賀市鍋島の医学部キャンパスで行われました。
「むつごろう祭：学術」担当の学生さんは、「子どもとエイズ」世界キャンペーンでのユニセフの4つの事業(①母子感染の予防②子どものHIV感染者およびエイズ患者の治療③若者の新たな感染者の予防④孤児をはじめ、エイズにより困難な状況にある子どもの保護サポート)の紹介やキャンペーングッズリストバンドの頒布、パネル展、ビデオ上映、募金活動などに取り組みました。
- ◎ 10月14日(土) 15日(日) ユニセフ グッズの頒布
エイズ・ストップ・キャンペーン『シエナ・プラス佐賀公演2006』会場
14日：白石町 有明ふれあい郷自有館
15日：武雄市 武雄文化会館
「NPO法人ふるさと佐賀文化交流応援団」主催のエイズ・ストップ・キャンペーン「シエナ・プラス佐賀公演2006」会場において、ユニセフが取り組んでいる「子どもたちのためにエイズと闘おう」世界キャンペーンの紹介とユニセフグッズの頒布をしました。
会場にはプラスを愛する中学生・高校生、保護者の皆さまがおいでになり、プラバート・ナンプー寺院のホスピスの写真やユニセフのパネルを熱心に見ておられました。たくさん子どもたちがエイズで命を落としていることを知って「子どもがエイズ?考えられないねえ。」という中学生の声も聞かれました。
- ◎ 10月15日(日) ユニセフ パネル展グッズの頒布
鳥栖市「健康福祉まつり」会場 コープさかのブース
- ◎ 10月15日(日) ユニセフ パネル展グッズの頒布
佐賀市三瀬村「三瀬ざっといかんばいマラソン」ゴール会場
- ◎ 10月16日(月) ユニセフ出前授業 佐賀市立諸富北小学校6年1組(26名)
6年1組の皆さんは総合的な学習の時間に「支え合ういのち」をテーマに学習をすすめました。ユニセフ出前授業では、子どもたちの意識調査をして「私たちの食料と世界とのつながりについて考えよう」というテーマを設定しました。子どもたちは、ユニセフの写真・ハンガーマップ・食料分配ゲームなどを通して、国や地域によって「人々が食べられる状態」には、大きな偏りがあることに気付きました。また、日本の食料自給率から私たちの「食」は諸外国に大きく依存し支えられていることを知り、他国の人々の「食」や「くらし」についても考えました。
- ◎ 10月19日(木) 佐賀清和中学校募金贈呈式 事務所

佐賀清和中学校ユニセフ実行委員会のみなさんは、9月6日の文化祭で「PEACE OF WORLD」のテーマのもとにユニセフの支援活動に取り組みました。ユニセフのビデオやユニセフ手帳、自作資料等で全校の皆さんや保護者の方々にユニセフへの理解と協力をお願いしました。
☆ チラシを配ったり協力をお願いしたりしていると「ああ、そうなんだ。」と、話を聞いてくれた人がいて嬉しかった。
- ◎ 10月24日(火)～25日(水) ☆ 頭で考えることも大事だけど、実際に行動してみて初めて分かったことがあったので、行動の大切さを学んだ。



☆ 難民の子どもたちの様子をテレビで見て、その時「ユニセフ」を知りました。ユニセフについてもっと知りたいと思ってインターネットで調べていたら、佐賀にもユニセフの事務所があることを知り、ぜひそこで体験学習をしたいと思いました。二日間過ごしてみて、ユニセフの事務所ってけっこう大変だなあと感じました。いろんな学校の先生たちからたくさんの電話がきたのでびっくりしました。

ユニセフを調べるなかで、子どもの兵士やストリートチルドレンなど様々なことを学ぶことができました。これからは、二日間で学んだことを周りの人々に伝えていきたいと思っています。

◎ 11月3日（金） ユニセフ パネル展・グッズの頒布・募金活動

小城市ふるさとまつり会場（ドゥイング三日月・三日月ふれあい公園）



さわやかな秋晴れの下、小城市ふるさとまつり、同時開催・佐賀広域圏郷土ふれあいまつり・小城市郷土芸能祭でにぎわう会場で、多くの皆様にユニセフの活動を紹介し、ユニセフ支援へのご協力をよびかけました。三日月中学校生徒会のみなさん・若竹ボランティアのみなさん・それに飛び入りで応援してくださったお友達・先生方を合わせて総勢28名のみなさんが、ユニセフ募金活動に取り組んでくださいました。

◎ 11月4日（土） ユニセフ のつどい 佐賀市アバンセ

◆◆ オープニング・ダンス 「We support unicef by dancing !!」



☆ 長崎でユニセフの支援活動をしている若者のボランティアグループ **DEPARTURE**。

今回はその中のダンスチーム **Tommy's** のみなさんがダンスパフォーマンスを披露してくださいました。

◆◆ フィリピンレポート 「ボランティアで訪れたフィリピンを見て考えたこと」

講師：吉田 篤哉 先生（九州大学歯学部歯科麻酔科 講師）



☆ 障害を持つ方の歯科治療に携わり、カトリック医師会が20年前から行っているメディカルミッションに参加。ボランティアとしてフィリピンの人々の歯科治療活動をしておられます。

☆ 「つどい」では、そこで見聞きし、感じられたことをお話していただきました。先生のフィリピンの人々・子どもたちへの慈愛に満ち溢れるお話の中で、「何かと比べて自分の幸せを自覚する

のはいけない事のような気がしていたが、『幸せと思わないと彼らに失礼』『健康は特権ではなく権利である。』とおっしゃる言葉が印象に残りました。

◆◆ 交流会「もっと知ろう！ユニセフのこと・世界のこと」

①「ユニセフ・ビンゴ」

②プチ・ミニ・チョコット・ワールド ツアー

パレスチナ・エジプト・インドネシア・ネパール・中国と、5つの国や地域を巡るワールドツアー。留学生の皆さんは、スライドショーや、写真、本、玩具などを持参され、母国の文化・習慣・お国自慢・言葉などを紹介されました。参加された皆さんは各国の方との交流を楽しまれていました。



ネパールのドゥルガさんご夫妻



中国の董さん



インドネシアのボガさん



エジプトのサイエドさん



パレスチナのサミさん



「つどい」に集われた皆さん

参加者の感想から

- ☆ 吉田先生の「健康は特権ではなく、権利である。」と言われた言葉が心に残った。全ての人たちが健康に生きたいと思う気持ちを大切にしなければならない。フィリピンだけではなく、日本も、他の国々も。ユニセフはそのためにも頑張っていると思う。
- ☆ 「障害を持つ人」についての先生のお考えに共感し、フィリピンで歯科治療をボランティアで毎年されている先生の生き方に感銘を受けた。そして、ペインティングされた石ころをフィリピンの子どもたちとの絆として大切に思われていることに先生の優しさを強く感じた。心洗われる時間でした。
- ☆ オープニングのトミーズのダンス、生でフレッシュな踊りで久し振りに心ウキウキになった。吉田先生のボランティア活動は頭の下がる思いがする。真のフィリピンを世界に知らせられたらと思った。
- ☆ 佐賀に来て市民の人たちと話す機会が少ないので、今日はとても楽しかったです。話し合うことはいいことです。(留学生)

「ユニセフのつどい」を終えて

日ごろからさまざまな形でユニセフをご支援いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて開催しました「ユニセフのつどい」です。参加された皆さまからは「参加してよかった。」「遊びながら学ぶことがあってよかった。」「すごく楽しかった。ぜひまた参加したい。」「これからも私たちにユニセフに協力できるように活動していきたい。」などの声をいただきました。ありがとうございました。今回ご参加されなかった皆様も次回にはぜひご参加ください。

◎ 11月8日(月) ユニセフ出前授業 三潯郡大木町立大溝小学校6年(59名)

6年生の皆さんは、総合的学習の時間に、世界に目を向けて「何かができる…自分たちにできるボランティア」をテーマに学習をしています。今回の活動名は「世界の子どもたちは、今」です。人口クイズ・食料分配ゲーム・世界の12歳・ビデオ「ユニセフと世界の友だち」などで、自分と同世代の世界の子どもたちの様子について学習しました。

◎ 11月11日(土) ユニセフ パネル展・グッズの頒布
かたりべの里「本庄まつり」会場(佐賀市立本庄小学校)

◎ 11月12日(日) ユニセフ パネル展&グッズの頒布 成瀬中学校バザー会場



第10回成瀬中学校学芸発表会会場において、自治厚生部の皆さんはユニセフ協力のためのバザーを開きました。保護者の皆さんや生徒さん、先生方にパネルを見ていただいたり、グッズの半額がユニセフの現地での活動資金になることを知っていただき、多くの協力を得ることができました。ユニセフ担当の生徒さんたちはひっきりなしのお客様の対応に大忙しでした。

◎ 11月14日(火) みやき町立三根中学校3年生 事務所訪問

2人の生徒さんが総合的な学習「共生～国際理解：ユニセフの活動とボランティア～」について調べるため事務所を訪問しました。マラリアを運ぶ蚊から家族を守るための殺虫剤処理をほどこした蚊帳や、地雷のレプリカ、ビタミンAのカプセルなどを見て「初めて知った！」と驚きの連続でした。



学習を終えて

☆ 私たちがふつうに暮らして、ふつうに勉強したり、ふつうに遊んだりしていることが、世界にはそういうことができない子どもたちがたくさんいることが分かりました。今日、帰る家があるということはとても幸せなことだと思いました。

☆ 私たちが簡単に使っている10円や20円で、世界の人たちのためにたくさんの方ができることが分かりました。これからは募金活動などに積極的に参加したいです。

◎ 11月19日(日) ユニセフ グッズの頒布 佐賀市バプテスト連盟佐賀キリスト教会

◎ 11月20日(月) 成瀬中学校募金贈呈式 事務所
自治厚生部長さん(3年生)のお話

☆ バザーに出す色々なものがたくさん集まったことに対して保護者の方に感謝したい。また、たくさん売れて募金することができるのも、保護者の方やいろんな方のおかげで、感謝の気持ちでいっぱいです。

☆ 自分たち自身もバザーを通して得るものがいっぱいあったので、これからもこのようなバザーが続いていって、僕たちと一緒に地球の未来を担う子どもたちのために貢献していけたらいいと思います。

◎ 11月21日(火) ユニセフグッズの頒布 佐賀第二合同庁舎にて

◎ 11月24日(金) ユニセフ出前授業 佐賀市立諸富北小学校6年生

6年1組「もっと知ろう!ユニセフのこと・子どもたちのこと」

6年2組「私たちの食料と世界とのつながりについて考えよう」

学習を終えて

☆ 私たちは先進工業国に住んでいて豊かだと思っていたけど、本当は色々な国の人たちに支えられているんだなあということが分かりました。次は私たちが何かしてあげなければならないと思いました。

◎ 11月24日(金) 募金贈呈式 事務所



佐賀市立城東中学校JRC委員会の皆さんは、11月5日の文化発表会でユニセフ募金活動に取り組みました。手作りの「ユニセフ募金に協力しましょう」と書かれたのぼりや募金箱を持って展示会場をまわり、保護者の皆さんや先生方、生徒さんたちに協力を呼びかけ、温かいご支援を受けることができました。

◎ 11月27日(月) ユニセフグッズの頒布 佐賀県庁

◎ 11月29日(水) 募金贈呈式 みやき町立中原小学校

◎ 11月30日(木) ユニセフ出前授業 三潞郡大木町立大溝小学校6年生

『「何かができる 自分たちにできるボランティア」～命と水:ユニセフサポーターになろう～』をテーマに、第1回目のユニセフ出前授業「世界の子どもたちは、今」の学習を発展させて、「水」の問題から見た世界の子どもたちの様子について更に学習をしました。

水クイズ、ビデオ「水を求めて」、ネパールの水がめを使っての水運び体験、ORS(経口補水塩)の話、スペシャルドリンク作り体験などをしました。

学習を終えて

- ☆ 水をこぼさないようにがんばって運びました。水がめを運ぶのは思っていたよりも大変だったです。
- ☆ ビデオを見て片道が6時間もかかる道のりを何kgもある水をもって歩くのは大変だろうなあと思いました。実際に水がめを持ってみるととても重かったです。水運びのために学校にも行けないということがよく分かりました。
- ☆ 地球には水はいっぱいあるけど、飲み水として使える淡水はたったの0.8%しかないということが分かってびっくりしました。

◎ 12月9日(土) ユニセフパネル展 「ふれあい人権フェスタ2006」会場 佐賀市文化会館



パネルでユニセフの活動を紹介し、「子どもの権利条約カード」で子どもの権利の40の条文を紹介しました。

◎ 12月10日（日） 佐賀市立昭栄中学校 2年2組 募金贈呈式 事務所

佐賀市立昭栄中学校の文化発表会のテーマは「かがやけ！生命のff（フォルテッシモ）～663ピースの仲間とともに～」でした。それを受けて2年生の学年テーマは「情熱大陸」、さらに2年2組のテーマは「友情」でした。2年2組（39人）の皆さんは「世界の友だちへの友情を」ということで、ユニセフについて調べ、2週間にわたって募金活動をしました。11月4日（土）の文化発表会では、オードリー・ヘップバーンユニセフ親善大使やユニセフのロゴマーク、世界地図などを1円玉アートで表現して保護者の皆さまや地域の方々にユニセフ募金を呼びかけました。



2年2組のみなさんの力を結集した1円玉アート



1円玉がぎっしり詰まった重～い！募金

活動を終えて

- ☆ 募金活動をすると決まったとき「そんなに集まらないだろう」と思っていたけれど予想以上にたくさんのお金が集まった。1人1人のお金は少ないけど、たくさんの協力があればこんなにいっぱいのお金になったと嬉しかった。
- ☆ 地域の人たちのおかげで集まった募金だから、これで世界の困っている子どもたちが助かったら嬉しいです。
- ☆ ユニセフの存在は知っていたけどあまり身近には感じていなかったが、実際に街頭に立って募金を呼びかけると、宅急便のドライバーさんやトラックの運転手さんもお金を入れてくれて、多くの人たちがユニセフに協力しているんだなあと思いました。ユニセフが身近なものになった。
- ☆ 街頭に立って1日目に「エイズと闘っている子どもたちのために」と募金を呼びかけていたら、HIVポジティブの方と会って話を聞き、「自分の言う言葉に責任を持たないといけない。簡単なことではないんだ。」と強く思いました。

◎ 12月20日（木） 募金贈呈式 佐賀県立鳥栖商業高等学校（鳥栖市）

佐賀県立鳥栖商業高等学校（西田智浩校長 生徒数600人）では10月19日（木）に『鳥栖商フェスティバル ～開け！文化の宝石箱～』を開催しました。フェスティバルでは、生徒会や各部、PTAでバザーや模擬店を開き、その益金34,484円をユニセフ募金とされました。

◎ 12月22日（金） 募金贈呈式 柳川市立大和小学校

柳川市立大和小学校では、例年ユニセフ募金に取り組んでいます。今年も児童会で、12月11日から12月20日までユニセフ募金活動に取り組むことが決まりました。毎朝、5年生・6年生のみなさん全員が交代で、登校するお友だちに募金協力を呼びかけました。募金協力をしてくれたお友達には手作りの「ユニセフ募金ありがとうカード」を渡して感謝の気持ちを伝えました。終業式で6年生の運営委員長さんから活動の報告があり、大和小の子どもたちの温かい思いがいっぱい詰まった重い募金箱を託されました。

ご支援・ご協力ありがとうございました

むつごろう祭学術様 佐賀清和中学校様 山小屋ラーメン様 カイセイ薬局荒江店様 愛知県宝陵高校様
大和中学校様 三日月中学校様 日本バプテスト連盟佐賀キリスト教会様 成穎中学校様 中原小学校様
城東中学校 JRC委員会様 佐賀県海外教育事情研究会様 21世紀を考える異業種交流・我楽多会様
昭栄中学校 2年2組様 みねまつ歯科様 ホンダパーツ西南佐賀営業所様 内田整体院様 (株)村岡屋様
佐賀市文化会館様 ヘアー&フェイスドゥース様 不二家様 (株)北島様 エクセルウィンズ様
Hear&Make EXCEL様 サンシャレー様 **TSUTAYA**様 レストランカンフォーラ様 いっせい麵処様
モンテカルロ太陽様 佐賀空港ターミナル様 吉原内科様 (株)筑紫建設様 栗原内科消化器科医院様
アルタ開成店様 アルタ高木瀬店様 サウンドスピリッツ様 鳥栖商業高等学校様 東洋館様
えんぴつ館様 大和小学校様 黒川カイセイ薬局様 最所安田法律事務所様 矢山クリニック様
風羅坊様 バリュー平山店様 三瀬そば様 (有)伊東生花店様 佐賀リハビリテーション病院様
川崎自工様 多布施クリニック様 浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟ウインタースクール様
ホテルニューオータニ様 佐賀シール工業様 田口電機様 ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様
上峰サティ様 佐賀玉屋デパート様 イオンスーパーセンター佐賀店様 バニーズ三日月店様
ジャスコ佐賀大和店様 鹿島モリナガ様 鹿島ピオ様 雇用能力開発機構佐賀センター様 すぎの子文庫様
ABCキルト様 **LOVEFM**様 道海島小学校様 ワークステーション **SAGA**様 ジャックス様
勤労者トラベルセンター様 梅津歯科様 佐賀県国際課様 リフレイン様 さが市民活動プラザ様
佐賀県国際交流協会様 佐賀市国際交流協会様 (2006年10月1日~12月28日)

* 様々な形でのご支援ご協力を感謝申し上げます。個人のみなさまからもたくさんのご支援を頂いて
いますが、平成17年4月1日からの「個人情報保護に関する法律」施行に伴い、個人の方のお
名前の掲載は控えさせていただきます。

おすすめの一冊

(ユニセフ60周年記念企画出版)



「世界の子どもたちに今おきていること」

絵 葉 祥明
発行所 きこ書房
定価 本体 952 円 (税別)

世界には、学校に一度も行ったことがない子ども 1億4千万人以上
つらく、きびしい仕事をしている子ども 2億1千8百万人以上
これは数字ではなく、世界の子どもたちからの届かない声！

「知る」ことから始めよう。
世界はきっと変えられる！

(本の帯より)